

経済学分野

【学士力の考察】（下線部分を修正）

- ・ 経済学は、有限で希少な資源を効率的に用いて、必要な財貨・サービスを生産・分配・消費する活動を科学的に研究することを通じて、人間社会を豊かにすることを使命としている。
- ・ 以上のような背景から経済学教育は、持続可能な社会を形成していくために、グローバルで学際的な観点のみならず、地域特性にも配慮して複眼的に諸問題を把握し、最善の解が求められる人材の育成を目的としている。
- ・ そこで、経済学教育における学士力の到達目標として以下の五点を考察したが、その相互の順序性、重み付けは各大学の教育理念に応じて構成されたい。

【到達目標 1】（解説、到達度②の下線部分を修正）

1. 日常の経済現象や経済全体の基礎的な考え方や理論を理解できる。

ここでは、社会に出てから将来の生活に経済学の知識を活用できるようにするため、身のまわりの経済活動や経済問題に関心を持たせ、経済全体の理論やその発展、仕組みを理解させねばならない。そのため、個別経済主体の行動に注目するミクロ的アプローチと経済を全体として捉えるマクロ的アプローチから、経済が均衡にあっても不均衡にあっても的確に分析できる基礎的な理論の修得を目指す。

【到達度】

- ② 基礎的な経済理論やその発展を理解し、経済現象の動きや仕組みを相互依存関係として把握できる。

【到達目標 2】（解説、到達度②、測定方法①の下線部分を修正）

2. 経済の歴史や制度を理解し、資料を援用して、経済情勢を分析することができる。

ここでは、現在の経済情勢を理解し、将来の経済予測をするため、過去及び現在の経済情勢を的確に分析できる能力を身につけさせねばならない。そのため、社会の発展と経済活動を歴史的な資料や統計データを用いて科学的に実証分析ができることを目指す。

【到達度】

- ② 資料を用いて過去の経済現象の時代的推移を理解し、現実の経済情勢を分析できる。

【測定方法】

- ①は、歴史的事象に関する関心の度合いを質疑応答・自発的発言やアンケート及び学修ポートフォリオなどにより確認する。

【到達目標 3】（到達目標 4 を 3 に修正）

3. 経済データの意味を理解し、必要なデータを収集・整理して、統計的な処理ができる。

【到達目標 4】（到達目標 3 を 4 に修正）

4. 経済政策の基礎的な用語や考え方を理解し、経済政策の重要性を理解できる。

【到達目標 5】（到達目標、解説、到達度②の下線部分を修正）

5. 経済学の知識を統合して、倫理と公共性と責任感を持ち、学際的でグローバルな観点から判断し、自らの意見を表現できる。

ここでは、一企業・一国の利益だけに立脚せず、相互依存関係の上に成り立つという共生の価値観に立って判断や行動ができるようにするため、経済学の知識を統合し、グローバルで学際的な観点から判断し、表現できなければならない。そのため、学際的で総合的な学修を通じて、公平・公正な立場から経済的な意思決定をできることを目指す。

【到達度】

- ② 経済学やその関連分野の学修成果を総合的に活用し、経済問題を世界の観点から考え、表現することができる。

